

1 成果

(1) 町全体としての成果

正答率の推移から、寒川町全体としては、各学校ごとの学力向上への取り組みにより、特に算数・数学において、全国平均点との差が確実に縮まってきている。また、これまでに課題として挙げられていた無解答率は減少しており、「一定時間内に問題を解くスタイルになれていない」という点については、改善が見られている。同様に課題とされていた小学校算数Aの「必要な情報を取り出して面積を求める」では、全国正答率が上がったのにも関わらず、全国平均レベルにまで上がってきている。

一方、国語に関しても、中学校国語Bは全国平均正答率に近づいている。課題として指摘されていた「説明的な文章について、表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと（B3一）」についても、全国平均レベルまで正答率は上がっている。町全体の今後の成果の表れが期待できるところである。

国語、算数・数学共に、教師個々人の取り組みはもちろん、校内研究における取り組み、学校全体の運営に関わった取り組み、学級や教科をこえた学年・学校としての連携、35人学級、少人数指導による取り組み、「地域のせんせい」の人材活用などが効果を上げている。

また、町教育研究員研究部会作成の「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）や「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」を実施し、学校ごとに結果の分析・対策の検討などを行い、複数方向からの実態把握を行っている。

さらに、平成23・24年度「寒川 学びっ子育成推進事業」による全小中学校の研究推進と連携、平成24年度町教職員研修会第3回「授業づくりの基本（日本女子大学：岩田満氏）」、第4回「思考力・判断力・表現力を伸ばす指導と評価（早稲田大学：田中博之氏）」など、教職員の授業力向上へ向けての取り組みも成果につながっていると考えられる。

2 学校が取り組むべき課題

(1) 現状の正確な把握・分析、課題の明確化と対応策（方針）の検討

- ・自校の弱点、成果を正確に把握し、それぞれの要因についての考察を行う。
- ・担当教科や学級担任のみの分析とせず、学校全体としての組織的な分析を実施する。
- ・分析から課題を明確化し、全教職員で課題を共有化する。
- ・課題から対応策を立て、全職員で対応策（方針）を共有化し、実現を図る。

(2) 基礎的・基本的事項の定着へ向けての取り組み

- ・授業者が、各単元や各授業における基礎・基本を明確に自覚する。
- ・基礎・基本に焦点を明確化させた授業を行う。
- ・授業開始時にめあてや目標（めあて・ねらい）を提示し、授業の最後に学習内容を振り返る活動をより多く行っていく。
- ・授業の中で、スパイラルな学習の機会をつくる。
- ・授業の中や課外における補充的な学習の機会をつくる。
- ・授業の中や課外において、ドリル的な反復練習の機会を設ける。
- ・小学校においては、客観的なテストを取り入れ形式に慣れさせる。
- ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の学年内実施と結果分析、考察、対応策検討を行う。

(3) 思考力・判断力・表現力の育成、活用の力の伸長をはかる授業づくり

- ・学ぶ楽しさ・意義・有用性を実感できる授業をつくる。
- ・多様な言語手段を用いて、書くこと、表現することを重視する。
- ・それらを他の子どもたちや教師に伝え合う機会、説明する機会を保障する。
- ・教科外の活動においても、上記の視点を取り入れて活動させる。
- ・校内のテストや評価においても、出題方法、解答方法に工夫を加え、B問題のような設問にも慣れさせる。

(4) 家庭学習の定着化へ向けての取り組み

- ・生活の基本習慣の安定をはかる指導を充実させる。
- ・家庭学習の方法を具体的に教える。
- ・授業での学習と家庭学習を結びつけるために、宿題を適切に与える。
- ・宿題作成を、教科担当や担任に任せずに、学年・学校で取り組む。
- ・家庭と連携した指導をはかる。

(5) 自己肯定感・自己有用感を育み、規範意識を育成する取り組み

- ・「自分に誇りをもてる」「人の役に立ちたい」というような気持ちをもつ子どもは学力も高い傾向がある。自己肯定感、自己有用感を育む指導をはかる。
- ・児童、生徒指導を充実させ、規律のある教室・学校をつくと共に、規範意識を相互に高め合うことのできる指導を構築する。

3 教育委員会が取り組むべき課題

(1) 授業力の向上に資する事業の展開

- ・学校を越えた研究交流の推進
- ・教職員研修会
- ・年次研修会
- ・校長会、教頭会における協議、情報交換、取り組みの検討
- ・他

(2) 研究員研究会での研究推進と普及

- ・教育課題研究部会
- ・指導法改善研究部会
- ・教材等開発研究部会
- ・児童生徒指導研究部会

※B問題を視野に入れた「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」の改訂

(3) 多面的な学力・学習状況の分析

- ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の結果の町としての分析
- ・「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」結果の町としての分析
- ・補助教材の有効活用

(4) 指導主事による指導、援助の充実化

- ・各校の調査結果の共同分析、対策検討
- ・月例訪問
- ・校内研究会での指導、助言
- ・他

(5) 計画訪問の充実化

- ・「授業改善へ向けての7つの視点」の作成、提示
- ・分科会での協議の充実

(6) その他

- ・若い教師を中心とした自主学習会への援助
- ・「地域のせんせい」の有効活用

